

## 1 改訂の基本的な考え方

他者とのコミュニケーションの基盤を形成する観点を重視しつつ、関心のある事柄から日常的な話題や社会的な話題まで取り上げ、一層幅広いコミュニケーションを図ることができるようにするため、内容においては、互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動を重視するとともに、具体的な課題等を設定するなどして、学習した語彙や表現等を実際に活用する活動を充実させ、言語活動の実質化を図る。

## 2 目標の改善

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語教育において目指す資質・能力を明確にした上で、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」の観点から、国際的な基準を参考に、五つの領域において小・中・高等学校で一貫した具体的な目標を設定し、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

**Point** 各学校で作成される学習到達目標は、五つの領域別の目標を踏まえながら、第2の2に記述された、より具体的な言語材料と言語活動を統合して設定されたものにする。また、同一の学習到達目標について、複数の単元で異なる言語材料を活用した異なる言語活動を行うことにより、五つの領域別の目標をよりよく達成できるようなカリキュラム・マネジメントや課題設定が望まれる。

**Point** 複数の領域を効果的に関連付ける統合的な言語活動を通して、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程で「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成することを目指す。

## 3 学習内容の改善・充実

・対話的な言語活動を重視する観点から、「話すこと[やり取り]」の領域を設定するとともに、語彙、文法などの言語材料と言語活動とを効果的に関連付けて、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせる。

**Point** 個別の知識は、「実際に英語を用いた言語活動」において活用し、主体的に運用したり、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得される。

**Point** 思考力、判断力、表現力等は「英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること」、「英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること」、「伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと」の3点に整理されている。

**Point** 外国語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を捉え、それらを整理したり吟味したりしながら思考を深めることで、自らの考えを形成したり深化させたり、さらに表現を選択したりして「論理的に表現」する。

・取り扱う語彙数について、現行の1200語程度から五つの領域別の目標を達成するための言語活動に必要なもの、小学校で学習した600～700語に1600～1800語程度の新語を加えた語とした。

**Point** 語彙増や追加言語材料等は言語活動を豊かにするためのものである。

・文、文構造及び文法事項について、表現をより適切でより豊かにするなどの目的で、「感嘆文のうち基本的なもの」や「現在完了進行形」や「仮定法のうち基本的なもの」など数項目を追加した。

**Point** 言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。

## 4 学習指導の改善・充実

・小・中学校の学びを接続するため、指導計画の作成に当たっては、語彙、表現などを繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現できるまで発信力を高める。

**Point** 「聞くこと」は聞く目的や場面、状況などを意識した活動や、聞いたことに対して何らかの形で応じたり考えを表現したりする自然なコミュニケーションを意識した活動を行う。

**Point** 「話すこと」はやり取りが追加されたことを踏まえ、やり取りから発表、発表からやり取りへと繰り返す柔軟な指導計画の下、豊かなやり取りを通して言葉の学習を促す必要がある。

**Point** 「読むこと」、「書くこと」はそこで伝えられる意味内容に留意し、双方向のコミュニケーションであることを意識した指導をする。何のために書くのかという目的や、誰に対して書くのかという読み手意識がもてるように、活動の提示方法、流れ、目標などを十分に考える。

・言語材料については、発達の段階に応じて、生徒が受容するものと発信するものがあることに留意して指導する。

・授業は英語で行うことを基本とする。

**Point** 「英語の授業は英語で」とは、生徒が英語に触れる機会を増やし、授業を実際のコミュニケーションの場面とするためである。

**Point** 生徒に英語を使う「きっかけ」を与え、英語を使えるように「支援」し、更に英語を使いたくなるように「褒め」、今後よりよい英語の使い手になるために適切に「フィードバック」することが大切である。